**答　　申　　書**

　　平成２７年３月４日新庄市議会より提出された政策

　 提言『雪対策の充実』について、本協議会で検討

した結果別紙のとおり答申いたします。

平成２７年１１月２４日

新庄市長 山 尾　順 紀　殿

新庄市雪とくらしを考える連絡協議会

はじめに

　「高齢者になっても安心して住み続けられる新庄の雪対策」を今年度のテーマに掲げた本協議会における４回にわたる協議の結果、２０１５年度の新庄市除雪計画に反映させることが妥当であり、当面速やかに実現を目指すべき対策として、以下の７項目を提案する。

**１．現行の雪対策支援制度の周知徹底と手続きの簡素化**

**２．共助による雪対策の推進**

**３．道路除雪の出動基準の見直しと情報提供の充実**

**４．流雪溝の利用におけるルールの確立と周知徹底**

**５．高齢世帯等の間口除雪における機械除雪の質の向上**

**６．雪捨て場の確保**

**７．空き家の雪処理問題**

　なおこれらに準じ、各項目について今後数年間（2年～5年程度）以内に具体化することが望ましい対策を【　】で示した。

**１．現行の雪対策支援制度の周知徹底と手続きの簡素化**

**雪下ろし等の雪処理に支援が必要な高齢者世帯等のために設けられている現行の支援制度について、各冬期の支援対象者の選定方法を、現在の原則年ごとの更新から原則継続に変更するなど、手続きの簡素化を図る。また市の雪対策支援制度全般について、広報、説明会、わかりやすいパンフレットの作成と配布、市の公式サイトへの雪対策総合ページの開設、町内・地区および市の相談窓口の開設等の多様な手法を創出し周知徹底を図る。このことにより制度の内容が市民に広く理解され、それを必要とする人に行き渡るようにする。**

【なお、これに伴い支援制度の予算の拡充と実情に合った配分の見直しを、２～3年を目途に進める。特に雪下ろしについては、近い将来困難な世帯がさらに増えるとみられることから、重点的な予算の拡充、地区内での助け合いの強化に加え、技量の確認を踏まえた雪下ろしボランティア人材登録制度、無落雪住宅特区の設置と補助の確立なども実現に向け検討する必要がある】

**２．共助による雪対策の推進**

**豪雪地帯各地では公助だけに頼らず、ボランティアや行政との協働を含む「共助」による雪対策が大きな流れになっている。こうした先進事例を広く収集し、施策や住民活動の指針として活かしていくべきである。市がこうした作業を率先して早急に実施することを、委員の最も多くが一致して求めている。また当面、共助により雪対策を推進しようとする地区や町内に対して申請による交付金制度を創設することが有効である。**

【先進事例の情報収集提供や交付金の制度化を経て、地域活動への支援を充実させ共助の仕組み作りをさらに進めていく。また、有償ボランティア組織の結成の機運を醸成し、支援していく。除雪ボランティアセンターの設立も視野に入れたい】

**３．道路除雪の出動基準の見直しと情報提供の充実**

**早朝の比較的遅い時間に大量降雪があったときなどに除雪の空白を生じる可能性がある、現在の除雪車の出動の判断を自動判定だけで行うシステムを見直し、人間による判断を加味したシステムとして再構築する。また、市民の不満や不安を軽減するために、除雪システムのわかりやすい説明を広報に掲載し、除雪予定時間がわかる「除雪時刻表」を配布するなどの情報提供を実施する。さらに、すでに先例がある、除雪車の運行状況をリアルタイムで見ることのできるインターネットサイトの構築が有効である。**

【市民参加の降雪情報連絡システム形成による出動判断の適正化にも取り組んでいく。また不足するオペレーターの確保のため、現行の養成のしくみに加えて仕事の魅力をPRし、地域内外から人材を求めていく。将来的には除雪技術のコンクールなどで優秀なオペレーターを励まし、モチベーションを上げる方法も試す価値がある】

**４．流雪溝の利用におけるルールの確立と周知徹底**

**市内の流雪溝については溢水や水量不足、時間通りに流れないなど満足度の低い状況がみられる。当面の課題として利用ルールの確立と周知徹底、利用モラルの向上が急務である。溢水等のトラブルを防ぐため、地区での話し合いの場を設けるなどして投雪ルールの確立・明文化を図り、併せてわかりやすいルール表の配布や指導・監視体制など、町内会、流雪溝管理組織等を通じて周知徹底する手法を具体化する。**

【流雪溝の整備をさらに強化していくことに尽きるが、流雪溝整備計画を市民に周知し理解を深める努力を払うとともに、着実に実行していく姿勢が重要である。今後の流雪溝整備に当たっては住民の主体的な管理組織の先行整備を図る。また消融雪溝との併用・補完システムも組み入れる】

**５．高齢世帯等の間口除雪における機械除雪の質の向上**

**高齢世帯の増加等に伴い、機械除雪の「置き雪」の除去が困難な家庭が増え、少雪地への流出にもつながるなど、大きな問題になっている。当面の課題として、自力で置き雪処理ができない高齢者や要支援者のリストアップと行政・地区・除雪業者の情報共有のしくみを確立するとともに、該当する世帯の間口に大きな雪塊を置かない丁寧な除雪方法をとり、除雪の質の向上を図る。また何らかの目印を作るなど、除雪オペレーターに対して対象世帯を伝える手法を工夫する。**

【丁寧な機械除雪だけでは限度があるので、できるだけ早く置き雪処理を行うボランティア活動を育成していく。有償ボランティア組織のほか、地域の共助、消防団や自主防災組織の活動、近所に住む中・高校生等の若者が特定の高齢者等の置き雪をマンツーマンで片付けるしくみなど多様な提案があった】

**６．雪捨て場の確保**

**低密度の市街地の拡大や部分的な建て混みの進行によって、雪捨て場の確保が難しくなっている。一方では中心市街地などでは空き地の増加もみられることから、まちなかの空き地を借り上げ、共同排雪場を創出するなど市内一律料金での、有料借り上げによる堆雪場の確保を図るなどの対策を創設する。**

【堆雪の余地がない狭い道路の建て込んだ地区では、雪捨て場の確保には流雪溝の整備が必要である。こうした地域では流雪溝の早期整備を図っていく】

**７．空き家の雪処理問題**

**近年の空き家の増加は、積雪期には倒壊や落雪の恐れをもたらし、周囲に危険や不安を及ぼしている。当面の対策として、市が地区の区長や民生委員と協力し、情報の共有を図るとともに、空き家の持ち主の探索や除雪の働きかけを行う。**

【新庄市の空き家対策条例を周知徹底し、空き家の適正管理を進める】

**『新庄市雪とくらしを考える連絡協議会』**

　　　　　　★会　長　　沼 野　夏 生

★委　員　　安 達　久 和　　柿 崎　秀 一　　佐 藤　定 雄

　　　　　　　　佐 藤　茂 一　　柴 田　義 則　　鈴 木　信 夫

　　　　　　　　土 田　政 治　　富 樫　啓 一　　長 澤　要 一

　星 川　征 和　 吉 田　裕 子　　樋 渡　祐 輔

渡 辺　弘 行

　　　　　　　　　　　　　　　（委員区分別５０音順）